

WORD

Little Press

vol.4

2010 NOV.

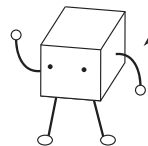
今年はじめて息が白くなる朝はいつだろう…

<http://word-tt.jp>

ご意見・ご感想を お願いします！

『ワードリトル・プレス』へのご意見・ご感想をお寄せください。
「もっとこんなふうにしたら、おもしろいのに」「こんな内容を掲載してほしい」「この記事に共感！」……どんなメッセージでも歓迎です！今後の制作の参考にさせていただきます。

メール ✉ word@w5.dion.ne.jp
もしくは、**スタッフ**に直接お声かけください。



この冬は寒いから、
お鍋がいっそう
美味しいね！

〈ワードのキャラクター〉
トコトンくん

京都オフィス

〒604-8164
京都市中京区六角室町東入骨屋町143
G&Gビル3F
TEL 075(222)1104(代)
FAX 075(256)5516
E-mail word@w5.dion.ne.jp



東京オフィス

〒102-0082
東京都千代田区一番町4-5
ニューライフ一番町203
TEL 03(3556)6160
FAX 03(3556)1132
E-mail word-tokyo@m7.dion.ne.jp



Dream

(む)

トレンドレポート

「続・クラシックバレエ」編

前回に披露した写真がモノクロだったことで、私の年齢についての疑惑が浮上りました。そこで今回は、それを払拭すべく、カラー写真を披露いたします。

これは「くるみ割り人形」の発表会。主役の少女・クララのお兄ちゃんという役所です。「女の子の役がいい!」と先生に抗議したら、「演技力のいる、おいしい役なのよ!!」と叱られ、しぶしぶ引き受けさせていただきました。

クララのお兄ちゃんはとてもやんちゃで、お父さんに怒られてばかり。この写真も、大勢のお客さんがいるクリスマスパーティーで、おもちゃのラッパを大音量で吹き鳴らし、ごきげんでいるシーンです。(ま)



行ってきました! 『ぶんぐ博』

オフィスの寒さ対策に 「フットヒーター」

10月27日、(ま)と(梅)は『ぶんぐ博』(文具・オフィス用品の博覧会/天満橋OMMビル)に行ってきました。

アイデアいっぱいの商品が並ぶなか、私たちが最も惹かれたのはフットヒーター「うらぼか」。あったかくて心地よい空気が出てくる仕組みで、直接に足をのせて暖をとります。オプションの専用ブランケットをデスクの周囲にぶら下げると、まるでこたつのように! 冬のオフィスの冷えに悩む女性のみなさんにオススメです。

『ぶんぐ博』では、オフィスワークに携わるお客さんのニーズを徹底的に汲み取っている、出展メーカーさんたちの心意気に感動しました。

『ぶんぐ博』のHP
チームぶんぐ OFFICE FAIR 2010
大阪最大級の文具・オフィス用品の博覧会!
今年も満員御礼!
5865名の御客様
ご来場有難うございました!

http://www.osaka-bunkyo.jp/bungu-haku/index.html



これが「うらぼか」です。

毎日おそうじ、iPad

使い方にも慣れて、みんなのタップ回数が増えた今日このごろ。私はガラスの画面を拭きそうじする回数が増えました。すぐに指紋だらけになるんです…。何とかならないかなあ。

使う前には手を洗いましょ。健康管理を工夫して、手の脂分を減らしましょう!
(ま)



きったないにゃん!

TOKYOの A 小ネタ!

vol.4
東京オフィス
(神)より

ワードが東京にオフィスを構えて8年目。
このコラムでは、東京のちょっとした小ネタを、
東京オフィスのスタッフがギャラリー形式で紹介します。



東京オフィスの裏にある五味坂

東京オフィス界限では、あちらこちらに江戸の面影を見ることが出来ます。
皇居にほど近い東京オフィスの住所は「千代田区一番町」。江戸時代には旗本屋敷が置かれ、「番町」と呼ばれたエリアです。怪談『番町皿屋敷』で知られる



永井坂。
右に東京メトロ半蔵門駅入口と、PHP研究所がある

地名でもありません。
当社の裏手にある坂は「五味坂」。百メートルほどの坂ですが、名前がついています。江戸は起伏の多い地形で、名前のある坂は三百を越し、ほとんどが江戸期に命名されたようです。

五味坂と交差する袖摺坂から、永井坂をあがるとPHP研究所。当社から最も近い四番町図書館に行くときは、南法眼坂や行人坂を通ります。日本習字教育財団のある市谷方面へは、図書館から東郷坂を越えていきます。坂の名の由来を尋ねると、江戸の歴史に触れることができます。袖摺坂は、道幅が狭いため、行き逢う人の袖がすれ合うほどだったことから。法眼坂は、某の屋敷があったからだそうです。さて、明治となり、番町から旗



袖摺坂。今は大妻女子大などへ通う学生でにぎわう

本たちが去ったあとは、各国の大使館が建てられました(広大な庭園を持つイギリス大使館は、当社の筋向いにあります)。それとともに、多くの文人たちが番町界限に移り住んだようです。
オフィスと同じ一番町には滝廉太郎、串田孫一、川喜田半泥子の旧宅があります。四番町、六番町まで足を伸ばすと、泉鏡花、与謝野晶子、島崎藤村、有島武郎、菊地寛らの住まいがあったといえます。

今、番町にはどんな人々が住んでいるのでしょうか。あまり生活臭のない町ではありますが、付近を歩いていると、魚屋さんに買い物に来るムツシユかまやつ、弁当屋で浜田幸一、コンビニで蓮舫に出くわしたり……と、まだまだ、オフィス界限の探索ネタは尽きません。

